28

マルイチエクソム 株式会社

ブロー成形による ＡＢＳ樹脂製品の製作で 販路拡大を目指す

工場内の様子

ＡＢＳ樹脂で作られた精米機に取り付けるプレート

補助事業で導入した機械

事業内容 ブロー成形一筋４６年のプラスチック製造会社

「マルイチエクソム」は昭和４５年創業のプラスチック樹脂の製造メーカーで「素材から顧客の役に立つような形にする仕事」をモットーにブロー成形を長年手がけてきた。ブロー成形は樹脂に空気を吹き込みさまざまな形状に加工する技術で、自動車のリザーブタンクや空調系、吸気系など複雑な形状の製品の加工に使われている。

最近は自動車関連部品の生産が増え、平成１８年と平成２５年に生産ラインを拡大し、さらにブロー業界では数少ない1日２４時間の生産体制を導入し、以前より約3倍の生産量を実現している。現在では車向けが売り上げの半分を占め、建設・農業機械、家電向けの製品も手がけている。

また、介護ベッドの仕切り板など介護用品も作っている。職場環境の改善にも熱心で、危険領域に手などが入るとセンサーが作動し機械を自動停止する仕組みを取り入れるなど、顧客の役に立つだけでなく社員が気持ちよく働ける環境づくりにも取り組んでいる。

補助事業 ブロー成形による ＡＢＳ樹脂製品の量産技術確立

難易度が高く、限られたメーカーしかできないＡＢＳ樹脂製品のブロー成形による量産技術の確立に取り組む。従来、自動車部品を中心にブロー成形を手がけてきたが平成２０年のリーマン・ショックで受注が落ち込み、その後の東日本大震災などで大きな影響を受けた。

そこで自動車以外の分野から受注を目指す中、プラスチックの一種のＡＢＳ樹脂を用いたブロー成形品に着目した。ＡＢＳは他の樹脂より表面の光沢があり、剛性や寸法精度に優れ、樹脂に印刷や塗装、めっきができる特徴がある。ただ、製造には原料タンク、粉砕機、乾燥機、混合機、温調機など既存のブロー成形機への付随設備が必要だった。

そこでこれらの設備を導入し、ブロー成形機で不良品を抑えたＡＢＳ樹脂による成形品を製作する体制を整える。原料の樹脂ペレットを乾燥する時間や温度、材料の混合比率など適切な成形条件を検討する。

具体的成果 ＡＢＳ樹脂を用いた ブロー成形で受注獲得

ＡＢＳ樹脂製品をブロー成形で生産するために原料タンクや粉砕機、乾燥機、混合機、温調機、パリソンコントロールを導入し、最適な成形条件を考慮し、成形技術の確立と量産ラインを構築した。ＡＢＳ樹脂で安定したブロー成形品を量産するには樹脂ペレットの乾燥時間や温度、粉砕材との混合比率、金型の形状などで大きく変わる。そこで金型接合部の形状を改良して樹脂が製造時に割れにくくするなど、ＡＢＳ樹脂製品の試作を繰り返し最適な成形条件を確立できた。

また、量産においては成形機本体の能力に対応した乾燥機と混合機を導入したことで、毎時１８０kgで樹脂を押し出す連続成形を実現した。ＡＢＳ樹脂の量産技術が確立した後に、取引企業などに提案したところ４社から引き合いがあり、農機具メーカーから精米機に取り付けるプレートの製造を受注した。現在は毎月約１５０枚を納品しており、年間約1，０００万円の売り上げにつながっている。

また当初から予想していた通り、ブロー成形でＡＢＳ樹脂を製造するメーカーは少なく、営業開始直後に４社から引き合いがあったことに新谷（にいや）幹夫社長は手ごたえを感じている。

今後の戦略 ブロー成形機を1台導入し、住宅分野に売り込み

補助事業を活用し、ブロー成形でＡＢＳ樹脂の量産ができるようになったものの、介護ベッドに使われる仕切り板などブロー成形品の受注が予想以上に増え、量産開始の時期を延期せざるを得なくなった。現在製造する精米用看板の部品を除いて「ＡＢＳ樹脂の生産に手が回らない。うれしい誤算だ」と新谷社長は複雑な表情を浮かべる。

そこで「平成２７年度補正ものづくり補助金」に申請し、採択を受けて、平成２８年１２月までに新たなブロー成形機を1台導入し、プラスチックブロー成形品の生産体制確立を目指す予定だ。「機械を導入し生産にゆとりが出れば、ＡＢＳ樹脂製品の受注に対応できる。生産体制が整う平成２９年から営業をはじめたい」と新谷社長は意気込む。

今後、新谷社長が注目するのは住宅設備分野だ。ＡＢＳ樹脂は表面に光沢があるのが特徴で「住宅設備の洗面台や浴室のパネル加工に最適」と新谷社長は目を輝かせる。ユニットバスのタイルなどの製品は現在手がけている製品に比べ、サイズが大きく付加価値が高いという。今後はそれらの製品や幅広い分野を手がけ、数年以内に売上高で大阪一のブロー成形メーカーを目指している。

マルイチエクソム 株式会社

代表取締役　新谷（にいや）幹夫

〒571-0037 大阪府門真市蓮島380

TEL. 072−884−3500

FAX. 072−884−5070

資本金／21，480千円

従業員／45名

小ロットOK　量産OK　試作OK

プラスチック製造一筋で、会社の発展に投資は惜しみません

代表取締役 新谷（にいや） 幹夫

ブロー成形一筋４０年であらゆる製品に命を「吹きこんで」きました。設備投資や従業員が働きやすい環境づくりに力を入れています。これからも大阪のブロー成形業界を引っ張るメーカーとして存在感を高めていきます。

http://www.maruitixsomm.co.jp/

取材を終えて

日本一の ブロー成形メーカーに

今回の補助事業や今後の事業展開について新谷社長は終始穏やかな表情で話された。その表情からは想像がつかないほど会社の規模を拡大させている。最近10年で2度の工場増設、1日3交代制も取り入れていることに驚いた。その中でも安全対策など社員が働きやすい環境を目指している。新谷社長は「目標は大阪一のブロー成形メーカーに」と語る。大阪一といわずに日本一のブロー成形メーカーを目指して成長してほしい。